

トホクのトマト栽培方法

発芽適温：20～30℃ 生育適温：15～30℃
土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；3～4 年あける

1. 作物特性

トマトは十分な光と温暖な気候を好みますが、強烈な日差しや暑さには強くありません。また雨や多湿も苦手な病気や裂果の原因になります。通常タネまきから植えつけ時期の低温に対する注意が栽培のポイントですが、最近の異常な夏の暑さや大雨の襲来を考えると、収穫時期の夏にむけて高温や雨への対策も考え、栽培を工夫することも大切になっています。また通常 5～6 段までしか果実を成らせませんから、トマト栽培は苗作りが特に重要です。

2. タネまき

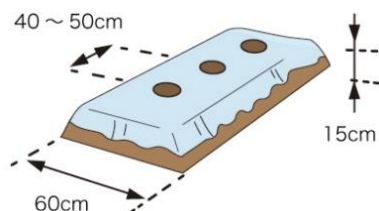
直径 9～12cm のポットに約 5mm の深さにタネを数粒まき、本葉 2～3 枚までに間引きます。育苗中に肥料が切れることの無いように週に 1 回薄い液体肥料を施します。セルトレーにタネをまき、生育に合わせて 12～15cm のポットに鉢上げするのも有効です。



3. 植えつけ

ナスやピーマンなどナス科の野菜との連作は避けましょう。

堆肥 2kg
苦土石灰 100g
化成肥料 100g
(1㎡あたり)



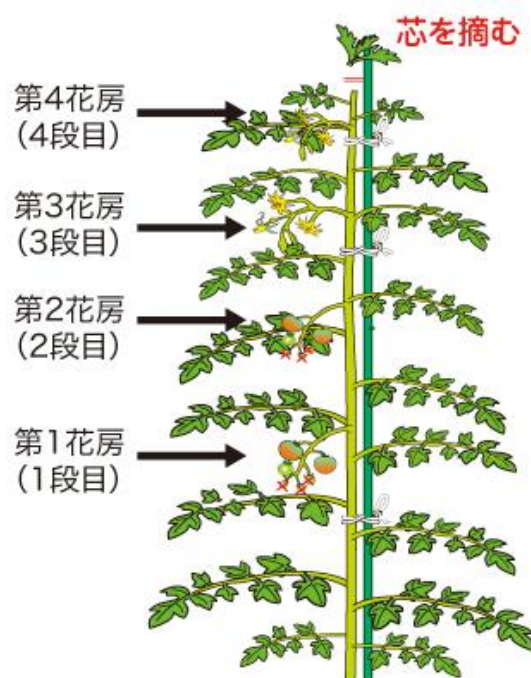
最初の花が咲いた頃が植えつけの適期です。夏の高温対策に白マルチが有効です。株間は 40～50cm にします。

深植えを避け、植えつけは晴天日を選び、活着までしっかりと水やりをします。トマトの花は同じ方向に向く性質があるので、最初に咲いている花を通路側に向けると収穫がしやすくなります。植えつけが終わったら倒れないように仮支柱を立てしっかり水をやります。



4. 栽培管理・収穫

草丈が 30cm 位になったら、しっかりとした支柱を立て、中心の茎を支柱に結び付けます。花は通路側に向けたので、支柱は反対側に立てれば収穫し易くなります。茎は成長に伴い太くなりますから、ひもは数回ねじって少しゆとりを持たせます。



わき芽は葉のつけ根から発生しますので全て取り除きます。通常自分の手の届く高さ(4～6 段目)までを目安にそこから葉を 2～3 枚残して摘心します。

果実が肥大してきたら、1 株当たり 50g を追肥し、その後は 2 週間おきに施します。病気の発生や、果実の裂皮予防、甘さの向上を目的に雨よけビニール張ると良いでしょう。



●栽培例 ●まく時期 ●収穫時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
中間地			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
暖地			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●